

「治癒症例を数多く発表。映像で改善していく症例を紹介」

「第13回 JPHMA コンgressホメオパシーはメタサイエンス」

「ホメオパシーはメタサイエンス」をテーマに第13回 JPHMA コンgressは日本ホメオパシー医学協会主催で9月29日、30日に東京・千代田区のベルサール神田において両日ともに約400名の来場者で埋め尽くされ、そして、ベルサール神田から全国4カ所、29日は、夕方から英国ロンドンとも生中継し、両日通して、1000名を越える参加があり、盛大に開催された。

メタサイエンティストとしてそれぞれの分野で活躍している専門家の来賓講演も行われ、目に見える科学の限界を感じさせるとともに、科学の奥深さを感じさせる講演には会場からも時折歓声も上がった。

そして、学術大会にふさわしい JPHMA 認定の多くのホメオパスから、体や心の難病をホメオパシーでの治癒症例が相次いで発表され、参加者は熱心にメモをとっていた。

中でも日本ホメオパシーセンター福島県御山・南会津から参加して症例発表した島倉和歌子さんの「震災後の福島における人々の不安と恐怖の状況と対応」には原発事故当時の生々しい体験、恐怖から来る心の叫びに会場の参加者も絶句する一幕も。「悲しみ、恨み、怒り、罪悪感からは何も生まれない。その感情が愛と感謝に変わった時、新しい福島が生まれる大きなエネルギーが生み出されるのだと思いました。そのことを教えてくれた由井会長はじめ皆さん方に感謝しております」と涙声で語った。

初日の午後から農業生産法人日本豊受自然農代表・農民の由井寅子氏が「安心・安全な食と農業への取り組み」 目に見えない気を大事にした作物づくり と題してDVDを通じて独特の堆肥づくりや農園で一切農薬、化学肥料を使わないでホメオパシーを応用した植物活性発酵液（アクティブプラント）を使用した自然型農業をおこなっていることを紹介した。

由井会長は、「サン・テグジュペリのSF小説『星の王子さま』の中に『大事なものは目には見えない』という名言がある。『大事なもの』を無視するのが科学なら、それを扱う科学がメタサイエンスであり、真の科学となり得るものです。メタサイエンスの真髄がこの言葉の中にあり、今大会テーマの副題としました。」と今大会の主旨を語る。

由井氏のホメオパシー症例研究における発表では、その主旨に合わせ、「星の王子様」に扮した由井会長が満を持して登場！

由井会長の発表症例は、アイセル病、ダウン症・白血病、膠原病・皮膚筋炎、自閉症の治癒症例。クライアントが由井会長による心・体・魂を三位一体でクライアントを見る

Zen Homoeopathy メソッド(由井氏の20年にわたるホメオパシーでの症例研究による三次元処方)によって改善していく症例が映像で紹介。これらの症例を通して、難病と医原病が密接に結びついていること。ホメオパシーが肉体のみならず、心・魂をも救っていることが事実であること。そして、母親の愛情が、子供の治癒を導いていること、その重要性が発表された。

2日目には、体の老廃物を水疱瘡にかかって出ることによって長い間のアトピーが治癒していく症例を通し、薬による抑圧を解放して、体内の老廃物を出し切ることで治癒していく症例。生きる希望を失っていた50代の女性が、自分の内にあるインナーチャイルドに気づき、みるみるうちに自信を取り戻し、そして、自分自身をも取り戻していく症例が発表された。さまざまなクライアントの変化には会場からも歓声や涙する様子が見られた。由井会長のホメオパシーの禅メソッドは、心・体・魂を三位一体で癒やす方法。レメディーをとり、自己治癒力が触発され、何が自然な生き方なのかがわかるようになり、心や体の老廃物を出し切り治癒していく症例を見て、ホメオパシーはこれからの医療になっていくと実感した。

「理論が分かって開発されたものは原子爆弾しかない。後は理論を後付けしているに過ぎない」と元農水省技術会議事務局長を務めた岩元睦夫氏は言う。まさに日本ホメオパシー医学協会の由井寅子会長が語る「科学理論に合わない現象や事実は無視されたり、有り得ないと一蹴されて終わることが傾向としてある。従来理論を超えて行くことに科学の進歩と意義がある」ということなのだろう。

今回は新しい科学の扉を開くために日夜、研究開発している方々が最先端の学術成果も発表された。

なお、パネルディスカッションにNPO法人元氣農業開発機構の成瀬一夫常務理事(環境農業新聞主筆)も参加した。